



能代高校東京同窓会会報 第 15 号

奮え松陵、我が健児

発行：能代高校東京同窓会
発行人：会長 畠 豊彦
編集人：副会長 干場 革治
電話：045-227-7550
E-mail:BRB0642@nifty.ne.jp

平成 17 年度 能代高校東京同窓会総会のご案内

【日時】平成 17 年 10 月 15 日 (土)
□ 受付 15:00~
□ 講演会 16:00~17:00
講師：菅原 貞敬 氏 (27 期)
秋田国体強化アドバイザー
□ 総会 17:10~18:00
□ 懇親会 18:00~20:30
【場所】アルカディア市ケ谷 (私学会館)
JR 市ケ谷駅下車、地下鉄新宿線・有楽町線
(A1-1、A4 出口)
南北線 (A1-1 出口) 市ケ谷駅下車約 3 分
TEL. 03-3261-9921
〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-2-25

【懇親会会費】 男性 7,000 円 女性 5,000 円
【年会費】 3,000 円 (お振込いただいた方を除き、当日受付にて受領いたします。)
【出欠ハガキ】 総会・懇親会に出席か欠席かを、住所、氏名等とともに同封したハガキに記入してください。9 月 26 日 (月) までに投函してください。出席の連絡、又は本会についての問い合わせは、次の電話、ファクシミリ、または e メールでもできます。
【連絡先：畠特許事務所内】
電話 045-227-7550
FAX 045-227-7570
E-mail BRB06442@nifty.ne.jp

2005 年 講演会 講師：菅原貞敬氏 第 27 期

講師紹介 菅原 貞敬 (すがわら さだとし) 氏



昭和 14 年 2 月向能代生まれ。東雲中学から吾が能代高等学校へ。在校中は、バレーボール部の中心選手として活躍。その大物振りは、早くから“超高校級選手”として注目された。

3 年の時には、全日本高校選手権大会に、秋田県代表として臨み優勝。東北・北海道に初の栄冠をもたらすと共に、能代高校バレーボール部を全国高等学校の頂点に導く大活躍をした。当時の秋田魁新報は、その超弩級の活躍振りを「菅原のスパイクは相手チームが 3 人ぐらいブロックしても破るほどすごいもの」と報じている。天性の身体能力に加えて不断の努力家で、授業開始前の早朝、一人黙々と練習に励む練習の虫でもあった。

卒業と同時に、(株) 東洋レーヨンに入社、実業団バレーボールチーム“東レ九麟会”の花形選手として活躍。ここでも東北人の粘りを発揮し練習に励み、2 年後には、全日本バレーボールチームのメンバーに選抜、昭和 35 年ブラジル、37 年モスクワの両世界選手権大会への出場を果たす。昭和 39 年、第 18 回東京オリンピック大会に男子バレーボール日本代表チームの一員として出場、「点の取れる菅原」として銅メダル獲得に大活躍し、全国民を熱狂させる。

昭和 43 年、“東レ九麟会”の監督に就任、プレーイングマネジャーとして若手・後進の育成、強化に情熱を燃やす。その後、全日本ジュニア総監督、全日本ユース男子監督などを歴任、アジア選手権や世界選手権で成果を挙げる。この中から、川合俊一や中垣内祐一などのスター選手を育て上げた。

平成 3 年アラブ首長国連邦監督、同 7 年にはケニア女子ナショナルチーム監督に請われて就任。バレーボール後進国の選手強化に、日本式の技と根性を叩き込むやり方で取り組む。平成 12 年、ケニア女子ナショナルチームの監督として、同チームを率いてシドニーオリンピックの贈舞台に立つ。帰国後は、再び Vリーグに復帰、日立佐和女子バレーボール監督等を歴任。この間、能代市制 50 周年記念の特別功労賞などを受賞。本年 4 月からは、秋田県体育協会の委嘱を受けて、平成 19 年の“秋田わか杉国体”を目指し、国体強化アドバイザーとして選手指導に取り組む。今こそ、生まれ育った秋田に対する恩返しの時と、改めて選手強化に情熱を燃やしている毎日である。

現役時代はバレーボールの花形選手として、又、その後は若手選手の優れた指導者として、バレーボール一筋に懸けた情熱と男の生き様を、豊富な国際経験と多彩な人々との交流を織り交ぜて熱く語ります。御期待下さい。

明日の東京同窓会のために

能代高校東京同窓会長 **畠 豊彦**



東京同窓会の皆様のご協力に対し深甚より感謝申し上げます。

私は東京同窓会の活動を継続するために微力ながら努力をしてまいりましたが、省みれば力及ばず抜本的な課題が山積していることを今更ながら感じております。

「同窓会とは何ぞや」、それは継続して存在させるべきものであるということです。同窓会は、卒業生が、先輩や同期生を通じて自分のアイデンティティを確認する、同根の仲間と囲まれた場であり、そして、卒業生がいる限り永遠の存在が望まれるものであります。そうであれば、同窓会はその存在を継続させるための組織と活動が不可欠であります。

そこで、同窓会に必要な日常業務を考えてみますと、年会費等の会費徴収、金銭の収支管理、会議の開催等の通知、会報の作成・発行、インターネットホームページの管理、本部又は支部同窓会又は近隣同窓会との連絡・交流、総会・懇親会の企画・実行、会員名簿・個人情報の管理（追加、削除、訂正、利用停止、開示）等と種々の業務が錯綜しております。

それでは、これらの日常業務を停滞することなく遂行するためには、どうすればよいでしょうか。最小限の人員と要処理時間及び必要機器とスペースの確保が必要であり、それを調達する資金と調整する人材が必要だということでもあります。

そこで、私はこれまでにできなかった次の対策を提案しておきます。

- ① 会費の負担減をはかる→運用資金の安定化（例えば、会費 1000 円/年×5～10 年分の納付。神奈川 S 高）、（又は、年会費と懇親会費の両方に若年・中年・老年の差を設ける）
- ② 会員の啓蒙運動をはかる→運用資金の増加（高齢者による寄付運動、年会費免除の廃止、フリーマ・オークション等の開設）
- ③ 同窓会業務の負担減をはかる→日常業務の円滑化（退職者、自営者のボランティアを募集、一部業務の代行委託、役員幹事業務の細分担化）
- ④ 同窓会への勧誘→親近感、必要性を高める（就職・進学等の相談、アドバイザー、同好会など趣味の場を作る。例えば、俳句、川柳、絵、写真、テニス、スキー、ハイキング、囲碁、マージャン、等）
- ⑤ 本部同窓会との提携→運用資金の安定化、日常業務の円滑化（二重年会費支払の解消、教員依存事務局体制の改善等）。新しい執行部が以上の諸点を参考にして課題に取組み、できるものから実行に移していくことにより、明日の東京同窓会が元気な姿で継続してゆくことを心から祈念する者であります。

節目の年に

能代高等学校長 **菊谷 一**



東京同窓会の皆様には、平素から特段のご支援を賜りまして、厚く御礼申し上げます。

本校創立から 80 周年を経た今年、「松陵を舞う八十の彩色—凌駕する力を今—」（3 年生の作品）をテーマに、記念事業の準備が進められております。9 月 17 日（土）の式典当日には、つくば宇宙センターにご勤務の本木雄吾氏（昭和 63 年 3 月本校卒）にご講演をいただきますし、祝賀会では、同窓会員による尺八の演奏や謡曲も予定しております。一方、記念招待試合は、13 年ぶりに春季東北大会に出場した硬式野球部が羽黒高、秋田商業を、春季全県大会で優勝した軟式野球部が作新学院、仙台商業を招いて行われました。いずれも接戦の末敗れはしましたが、全国大会の予選に向け確かな手応えをつかんだようでした。この試合と能代選抜を通して、地元野球ファンの方々の期待が日に日に膨らんでいくのを感じます。

ところで、千葉で行われる今年のインターハイでは、体操（2 年連続）、柔道女子（同）、空手女子（3 年ぶり）の他、個人では柔道男子・女子各 1 階級、空手男子形、ソフトテニスが全国の強豪に挑みます。文化部では、無線部女子、囲碁部男子団体及び個人、放送部 1 部門、弁論部（昨年全国準優勝）が全国の頂点を目指します。

「学力低下」の論議がかまびすしい中、能高生の進学に対する意識は高揚しており、今春の卒業生 283 名中、国公立大合格者数が 96 名、四大進学者数は 203 名となりました。「至誠力行」を掲げ所とし、生徒と教職員が一体となり最後まで諦めなかった結果だと思っています。なお、都内に進学先が決まった新同窓会員は、四大・短大への 57 名、専門学校への 7 名、就職の 5 名でした。

貴会のより一層の発展をご祈念申し上げますとともに、多くの皆様に、記念式典や祝賀会へご出席下さいますようご案内申し上げます。

